

### 第37回（2021年度）マツダ財団研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

受付番号	研究題目および研究概要	研究代表者 (*役職は応募時)	研究期間 (年)	助成金額 (万円)
8	兵庫県川西市の小学校における市民団体と連携した体系的な自然体験学習の効果	上田 萌子 大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科助教	2	80
	<p>学校教育における自然体験学習の重要性が認識されているが、自然体験学習の評価の多くは、学習効果による参加者の変容等より、実施回数や参加者数で判断されているのが現状である。また、指導者の不足により、内容も表層的で数時間から2~3日程度と短期のものが多くとされている。本研究では、小学校教育における学年を連続した体系的な自然体験学習を実施している兵庫県川西市を事例に、子どもたちへのアンケート調査を通じてその学習効果を評価するとともに、市民団体との連携体制の仕組みを明らかにし、今後の自然体験学習の効果的な実施のあり方を探る。</p>			
10	湖上ボート運動がもたらす障害者の対人関係構築とQOL向上	大平 雅子 滋賀大学 教育学系教授	1	70
	<p>知的障害児・者が、地域で得意なことを十分に活かして生活を過ごすためには、自らの感情をコントロールできるようにする教育的な支援が必須である。一方、滋賀県では湖でのボート体験を実施し、知的障害を有する者同士の対人交流の拡がりに向けた可能性の検証に取り組んできた。ボートに乗り、仲間と運動することは、交流の拡がりのみならず、心身へのポジティブな影響も期待できる。そこで、本研究では知的障害児・者に対する湖上ボート体験が対人関係やQOLにもたらす影響を効果検証する。</p>			
11	地域おこし協力隊制度を活用した地域課題の解決や地域の諸活動の新たな担い手を育成する活動方法論の構築	板垣 順平 長岡造形大学 大学院造形研究科助教	2	90
	<p>本研究は、総務省が2008年より実施している地域おこし協力隊の制度を大学が活用し、実務経験や専門知識の少ない若者でも、限られた活動期間のなかで、隊員が地域で活躍できるための活動方法論を提示することを目的とする。具体的には、地域おこし協力隊を希望する若者を大学が学生として受け入れ、活動に必要な知見やスキルを大学で学びながら、研究の成果を地域おこし協力隊の活動に生かすための活動サイクルを構築するとともにこの活動サイクルを生かすことができる環境や拠点を整備し、その意義を明らかにする。</p>			
20	児童養護施設における即興を用いた音楽ワークショップ・プログラム	大島 路子 桐朋学園大学 音楽学部非常勤講師	2	80
	<p>本研究では、親と離れて暮らし十分な愛情を受けられずにいる児童養護施設の子供達に、自己表現の手法と場を創出する。そして、その手法を記録し、他研究者に向けて開示することにより、既存の音楽活動を児童福祉に応用する機運を高めることも本研究の目標である。即興音楽創作に加え、身体表現、言語表現を採り入れることによってどのような変化があるのか。プロボノや若手音楽家による評価と記録、施設職員との話し合いを重ねることにより、その可能性を検証して行く。</p>			
合 計 4件			助成金総額 320万円	